

2024年度SPIO Award

SPIO Award は、毎年 Auris Nasus Larynx (ANL) に掲載された原著論文の中より、優秀原著論文1篇に対し、その著者に賞状と賞金(50万円)を贈呈しています。(ただし、筆頭著者は45歳以下) また、受賞者には日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会において講演の場が与えられます。これは平成13年から始まり令和5年までに24名の受賞者を選出しました。

2024年度は、掲載された原著論文108編の中から候補対象となる67編を英文誌委員会のメンバーで審査し、最終的に SPIO Award 候補論文として4編が推薦されました。その後 SPIO 選考委員会および理事会で選考した結果、東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻臨床疫学経済学 小泉めぐみ氏が選ばれました。

Megumi Koizumi : Impact of COVID-19 pandemic on the number of otolaryngologic surgeries in Japan.
ANL Vol.51, No.3, 617-622, 2024

令和3年度曾田豊二SPIO奨学金受領者(ボストンより)

山形大学 小泉 優氏

2022年2月より米国ボストンの Harvard Medical School で Research Fellow として研究をしています。ボストンはアメリカ東海岸北部に位置する、アメリカでも最も古い都市の一つです。そのためか、ボストンにはアメリカ最古の公立図書館や、アメリカ最古の公共公園、アメリカ最古のレストランなどがあります。1636年に設立されたハーバード大学もアメリカ最古の大学であり、現在では世界トップクラスの大学として知られ、多くのノーベル賞受賞者、政治指導者などを輩出しています。私は Harvard Medical School の Teaching Hospital の一つである、Massachusetts Eye and Ear Infirmary (MEE) に勤務しています。MEE は Massachusetts General Hospital に併設された、名前の通り目と耳に特化した病院で、眼科、耳鼻科ともに常に全米の病院ランキングの上位に位置しており、国際的にも高い評価を受けています。病院内には、Eaton-Peabody Laboratory (EPL) という、世界最大かつ最も長い歴史を持つ聴覚研究センターがあり、20近くの研究室が聴覚に関するあらゆる研究課題に取り組んでいます。

私は現在、2つのラボに所属して仕事を行っています。1つは Dr. Aaron Remenschneider のラボです。私が日本にいたときから行っていた内耳の基礎研究を発展させるために彼らとの共同研究を開始したため、研究内容は内耳の基礎研究です。しかし、彼は中耳の手術や研究のエキスパートであるため、彼の仕事である中耳 Drug Delivery や拡張高周波域の骨導聴力測定システムの開発、Laser Doppler Vibrometry による鼓膜可動性の評価などの研究にも関わらせて頂いております。ヒト側頭骨を鼓室形成術の手順で加工してサンプルを作製したり、被検者の鼓膜にレーザーをあてて鼓膜の可動性を評価したりする機会もあり、多少は臨床のリハビリになれば、と思いながら日々励んでいます。もう一つは Dr. Albert Edge のラボで、彼は内耳再生研究では世界でトップクラスの研究者です。こちらでは音響障害後の有毛細胞の再生可能性について遺伝子改変マウスを使った解析を行っています。最近では先天性難聴に対する遺伝子治療なども試みております。それぞれのラボのミーティングに加え、EPL としても定期的に研究会などが開催されるため、耳に関する様々な研究分野の情報に触れることができ非常にエキサイティングなのですが、私の語学力では消化不良になってしまい、悔しい思いをすることが多々あります。

ボストンは北国なので冬はそれなりに寒くなり、最高気温が氷点下という日も多いです。最低気温が-20℃以下になることもあり、息子がふざけて外で濡れたタオルを振り回してみたら一瞬で凍っていました。しかし、ここ数年は雪が少ないため、生活する分にはそれほど大変な思いはしていません。一方で、夏はそれほど暑くならず、とても過ごしやすい天候になります。私が住んでいるのはブルックラインという、ボストンの隣町です。治安はアメリカとしては非常に良い方で、日本人もかなり多く住んでいます。日本食のスーパーなどもあり、日本人が住むには比較的良好な環境だと感じます。もし留学希望の方がいらっしゃるのであればボストンは物価以外の面ではとてもおすすめの街だと思います。

最後に、国際耳鼻咽喉科学振興会ならびに曾田豊二 SPIO 奨学金のご支援により、このような貴重な機会を得ることができたことを、心より感謝申し上げます。私は初期研修終了後、福岡大学耳鼻科に2年間在籍しており、その際に、曾田先生にもご指導を頂いたことがあります。そのため、本奨学金を拝受することが出来たことに大変強いご縁を感じながら日々学問に励んでいます。帰国後はこの経験をもとに、少しでも耳鼻咽喉科の発展に貢献できるよう研鑽を積んでまいります。



写真1 Remenschneider 先生(右から2人目)邸での家族パーティー(右端が筆者)



写真2 Edge 先生(左手前)、筆者(右手前)とラボメンバー